

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第115回 旧暦を知れば事件・伝統行事が見えてくる

【講師】 やました としお 山下 敏夫 氏

昭和23年愛知県生まれ70歳。商社マン時代繊維業界に長く関わり、四季の到来時期が大事で、中国をはじめ近隣諸国との取引でも旧暦の必要性を強く感じた。現在は、「旧暦の会」の会員・「南太平洋協会」の会員で旧暦の知識を習得し、自らも勉強会を開催し普及に努めている。

【内容】 旧暦は明治5年以前まで使われていた暦で、正しくは太陰太陽暦です。月の満ち欠けを基準にした太陰暦を基にしています。しかし太陽暦とは1年で11日程度くるいが生じ、この季節のずれを調整するため二十四節気を取り入れたものです。

慶長19年（1614年）10月1日に起きた大坂の陣は旧暦冬の季節で大坂冬の陣と言われ、翌年の旧暦夏にあたる4月6日に起きた陣は、大坂夏の陣と呼ばれます。

この様な事件、伝統行事（七五三他）を旧暦と照らすと一層理解が深まります。



日時	平成30年10月21日（日） 14:00~16:00	受講料	無料
場所	多摩交流センター会議室 京王線府中駅北口 府中駅北第2庁舎6F（府中市寿町1-5-1）	問合せ先	多摩交流センター内 TAMA市民塾 TEL 042-335-0111
申込方法	当日会場にお越しください。先着50名までとさせていただきます。		

広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

ひのはらの魅力発見！ 払沢周辺クイズチャレンジ!!

実施日 平成30年10月～平成31年1月
（クイズチャレンジは12月20日（木）まで）

場所 西多摩郡檜原村 払沢の滝周辺

内容 地域の情報をより多くの人に知ってもらうために、平成30年10月1日（月）～平成30年12月20日（木）の期間でクイズチャレンジを開催します。

クイズは、「知ってほしいなクイズ」（10問）と「知ってたらすごいクイズ」（8問）に分かれており、「知ってたらすごいクイズ」は期間中に払沢の滝入り口バス停や周辺店舗に掲示されるので、探してみてください。

後日、正解数に応じて払沢の滝周辺で使える割引券をお送りします。なお、解答発表は平成31年1月以降に行います。

主催 ひのはら魅力発見隊
問合せ NPO法人フジの森内 ひのはら魅力発見隊事務局
担当 佐藤
TEL 042-598-6928



ちょっと一息

とっておきの島しょの土産

東京の島しょ地域のお土産の第3弾は、東京の南約140キロに位置する利島村の椿を紹介するね。利島村は、島の面積の約8割が椿の木で覆われていて、島の斜面の至るところに椿の段々畑が広がっているんだ。椿は、冬に満開になって、夏には多くの実をつけて、秋になると熟すんだよ。この時、一粒一粒人の手で拾い集められて、丁寧に精製されて、良質な椿油が造られるんだ。

椿油の生産は約250年ほど前の江戸時代から行われていたんだ。利島では、水が少なく、稲作ができなかったため、幕府に上納されていたんだって。現在では、全国の椿油の生産量の約6割を占めて、日本一なんだ。

食用つばき油

揚げ物には、椿油3に対し、紅花油または大豆油7の割合でブレンドすると風味が増すんだ。ドレッシングには、椿油3に対し、果実酢1の割合にハーブやスパイスなどのお好みの材料を加えると、味・香り・色などのパリエーションが楽しめるよ。



島椿せっけん

椿油を贅沢に使用したせっけんだよ。椿油に含まれるオレイン酸がお肌に潤いを与えるんだ。泡立ちもとてもいいんだ。



TOSHIMA Excellent hair & skin care

スキンケア用で色も臭いもほとんどない、贅沢で高純度な椿油だよ。保湿力が高く、メイク直し知らずって、評判なんだ。

ネイルオイルやマッサージオイルとしても使えるんだ。



今回紹介したお土産は、6月号で紹介した、竹芝客船ターミナル内のアンテナショップ「東京愛らんど」（最寄駅はJR浜松町駅ほか）で販売しているから、ぜひ見てみてね。

東京愛らんどホームページ（<https://www.tokyoislands-net.jp/>）でも、通信販売しているよ。

【情報提供】公益財団法人 東京都島しょ振興公社 TEL 03-5472-6546

「多摩交流センターだより」の問合せ先

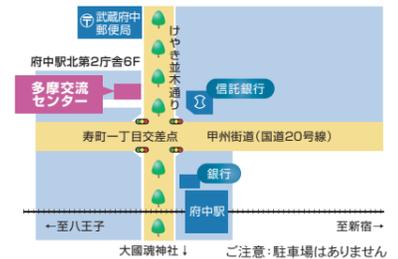
(公財) 東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6F

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ 多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



- 今年の天候は異常続きです。関東では初めて6月に梅雨明けの発表となりました。梅雨明けの7月初旬には、台風7号の通過後に西日本各地で未曾有の豪雨となり、200名を超える死者行方不明者を出す大災害となりました。この豪雨災害に対しては、東京の市町村も被災した自治体に職員を派遣し、支援を実施しています。さらに、7月下旬には観測史上初の東から西へ逆走する台風12号も発生しました。被害を受け、復興に取り組んでおられる被災者の皆様に、この場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。また、暑さも尋常ではなく、青梅市で40℃を超え、過去最高となった日もありました。猛暑が続いていますので、熱中症にならないよう体調管理には十分気をつけましょう。
- さて、本紙、2ページでご紹介しているとおり、先日、府中市プラッツパルトホールで、調査研究結果発表シンポジウムが開催されました。「地域戦略としての多文化共生～経済分野と防災分野の取組から～」と題する今回のシンポジウムには、多くの市民や自治体職員が参加され、熱心に基調講演やパネルディスカッションに耳を傾けていました。
- 6月中旬に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」では、外国人労働者の受入れ拡大が打ち出

され、秋の臨時国会で入国管理法改正案が提出されると報じられています。

人手不足が目立つ「農業」、「介護」、「建設」、「宿泊」、「造船」の5つの分野で規制が緩和され、技能実習終了者の期間延長や、日本語能力試験の合格者などの要件を満たした外国人に5年間の就労を認める内容となっています。

○ 元々、多摩地域は大学が数多く立地していることから、外国人留学生が多い地域ですが、このような背景もあり、今後、更に外国人住民が増えることが想定されます。

これまで、自治体が行う外国人に対する施策は、インバウンド観光を狙いとした地域PRや在住外国人向けの日本語学習支援などが中心でした。しかし、これからは、あらゆる分野で日本人住民とほぼ同じ外国人のニーズへの対応が必要となると思われます。これは大きな変化です。

○ シンポジウムで講演した有識者やパネリストからは、外国人住民に地域経済の発展や地域の活力を担ってもらうための積極的支援などの取組が紹介され、多文化共生社会の実現をめざす上での様々なヒントが示されました。

○ 天候や気候だけでなく、社会情勢にも大きな変化が見込まれます。

今回のシンポジウムを機会に、外国人も含め、誰もが活躍するまちづくりへの取組が進めば幸いです。(M.N)